

— 総 会 —

開会挨拶



日本海にぎわい・交流海道ネットワーク代表代理
新潟市収入役 堀川 武



総会開会挨拶の様子

平成18年度総会にあたり、日本海沿岸の各地域からご出席いただきました会員の皆様にご挨拶申し上げますとともに、開催にご尽力いただいた事務局の北陸地方整備局、並びに開催地である唐津市の皆様方に心から御礼申し上げます。

本ネットワークは、北は北海道から、南は九州までの日本海沿岸の各地域の港に関係する人々が一堂に会し、日本海側で初めて港湾を核とした連携づくりを進める場として、平成7年に発足いたしました。すでに10年以上に及ぶ歴史を積み重ね、その間、ネットワーク会員相互の交流を深め、各地域の発展を進めてまいりました。

近年、中国を初めとするアジア地域の経済が急速に発展する中、私ども日本海に面し港を擁する各都市には、対岸諸国と近距離にあるという地理的優位性を活かしながら、港の力をつけ、日本海ゲートウェイとして、人・物・情報が行き交う活気に満ちたまちづくりを進めていくことが求められております。

一方で、住む人、訪れる人がそのふれあいを通じて豊かな体験ができる潤いのあるまちづくりの実現も必要となります。そのためにも、個々の港がその独自性を活かして競争しながらも、共通性を活かして連携していくことが重要であり、本ネットワークの存在意義はますます高まっていくものと思います。

さて、九州での総会開催は、対馬市と合併いたしました旧厳原町に続き2回目となります。今回開催をお引き受けいただいた唐津市でございますが、唐津の名前は、かつて中国大陸を唐が支配した時代、そこへ渡る津、つまり港であったことに由来するものと言われ、魏志倭人伝にもその旨が記載されていますように、まさに古くから港とともに栄えてきた歴史ある町と伺っております。

現在、「『唐の津』の再生」をキーワードとして、地域経済の発展を支える唐津港を核としたまちづくりを推進されていますように、その活気に満ちた取り組みは、ネットワーク会員の皆様のこれからの「みなとづくり」、「地域づくり」にとりまして、大いに参考にさせていただけるものと思っております。

終わりに、会員の皆様方のさらなる発展と、この総会を通じて各地域の交流がますます深まりますことを心から祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

平成18年7月26日

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク代表 新潟市長 篠田昭
代読でございます。本日は、本当におめでとうございました。